

家畜衛生 いずも

H26年度 No.4

2015. 3月



島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

★高病原性鳥インフルエンザ警戒態勢継続中！

昨年12月に宮崎県で発生した高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)は、表に示す通り、その後、4県5カ所に広がり(平成27年2月19日現在)、依然として発生リスクの高い状況が続いています。

今シーズンの家きんでの高病原性鳥インフルエンザ発生概況

	発生日	所在地	飼養形態	飼養規模
1 例目	平成 26 年 12 月 16 日	宮崎県延岡市	肉用種鶏	約 3,900 羽
2 例目	12 月 28 日	宮崎県宮崎市	肉養鶏	約 4 万 2,200 羽
3 例目	12 月 30 日	山口県長門市	肉用種鶏	約 3 万 3,000 羽
4 例目	平成 27 年 1 月 15 日	岡山県笠岡市	採卵鶏	約 20 万羽
5 例目	1 月 18 日	佐賀県有田市	肉養鶏	約 7 万 2,900 羽

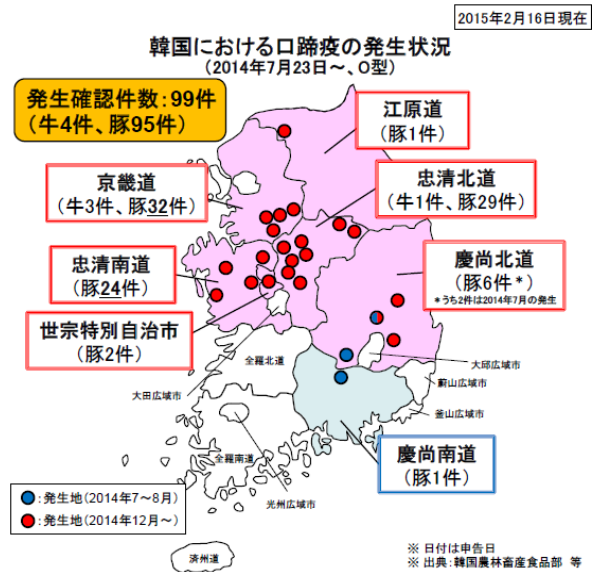


現在、日本国内において、いつどこで発生してもおかしくない状況であり、渡り鳥の北帰行が終わるまでは、家きん(鶏、あひる、うずら、きじ等)を飼養している方は「飼養衛生管理基準」を遵守するとともに次の点に注意し、厳戒態勢の継続をお願いします。(品川)

1. 飼養している家きんの死亡数が増えるなど、わずかでも異常を感じた場合、直ちに家畜保健所へ通報する。
2. 人、車両等の農場敷地・鶏舎への出入り並びに資材搬入の際の洗浄及び消毒を徹底し、その記録を残す。
3. 鶏舎内はもとより養鶏場内を消石灰等で定期的に徹底消毒を行う。
4. 防鳥ネットを再確認し、破損がある場合は速やかに修繕する。
5. ネズミ等の小型野生生物が侵入できる隙間について、鶏舎の屋根や壁等、普段見落としがちな場所も点検し、必要な修繕等を行う。
6. 更に、ネズミの駆除として忌避剤や殺鼠剤を定期的に用いるなど、可能な限りの対策を行う。
7. 管理者並びに従業員等の衛生意識の徹底を図る。

★口蹄疫にも注意しましょう！

国内では、高病原性鳥インフルエンザが宮崎、山口、岡山、佐賀で発生し、皆さんの関心もそちらの方に向いている事と思いますが、お隣の韓国では口蹄疫が平成26年7月23日に3年3か月ぶりに発生して以来、現在も断続的に発生しています。過去の発生例を見ますと、国内で発生する前には必ず韓国で発生しています。また、中国でも同様に継続して口蹄疫が発生しています。特に人の動きが活発になる春節(2月19日)前後は注意が必要です。



韓国、中国は日本と地理的に近く、また、人の往来や物流も盛んであることから、国内への**口蹄疫ウイルスの侵入リスクは極めて高い状態**にあると考えられます。

そこで畜産農家の方へ口蹄疫侵入防止のために次の事をお願いします。

(飼養衛生管理基準から)

- ①自分の農場に入る際も、靴や持ち込む物の消毒を徹底しましょう。
- ②外部からの人や車をなるべく農場に入れないようにしましょう。
- ③畜産関係車をはじめ農場に立ち寄る車や持ち込む物は必ず消毒しましょう。
- ④従業員の方も含めて、口蹄疫が発生している国への渡航は、できる限り控えましょう。
- ⑤毎日、必ず家畜を観察して、おかしい時には、すぐに家畜保健衛生所に連絡しましょう。

(矢田)

過去の日本での発生をみると
まず韓国で発生しています！



2000年 → 2000年

2002年

2010年 → 2010年
2011年

2014年 → 2015年
🚫

侵入する可能性
は非常に高い!!

消毒は徹底的に！

- 衛生管理区域に**出入り**する車は必ず**消毒**しましょう



衛生管理区域入口の車両消毒装置

- 衛生管理区域・牛舎に入るときは**靴の消毒**と**手指の洗浄(消毒)**をおこなひましょう



衛生管理区域入口の踏み込み消毒槽



牛舎入口の踏み込み消毒槽



消石灰は
寒冷時も効果が
あります



ブーツカバーの着用もOK!

★第11回全国和牛能力共進会への取り組み

第11回宮城全共にもむけて、本県では性選別精液(約90%の確率で雌雄子牛を選択して生産することが出来る精液)と受精卵移植を活用して、肥育区(7区:恵茂勝・8区:勝照茂)の候補牛生産に取り組んでいることを、本稿にてお伝えしてきました。昨年12月中旬に管内4地区での受精卵移植が終了しましたので、これまでの取り組み状況についてお知らせします。

各地区協議会名	採卵頭数			移植頭数		
	第7区 (恵茂勝)	第8区 (勝照茂)	計	第8区 (恵茂勝)	第9区 (勝照茂)	計
雲南市出品対策協議会	1	1	2	11	11	22
奥出雲町出品対策協議会	2		2	22		22
出雲地域出品対策協議会	3	3	6	33	33	66
斐川町出品対策協議会	1	1	2	11	11	22
合計	7	5	12	77	55	132

管内4地区の出品対策協議会で恵茂勝又は勝照茂のSort90♂(約90%の確率で雄子牛を生産することが出来る精液)選別精液で12頭の採卵を実施しました。

採卵された受精卵は、全県協議会での抽選による斡旋を経て、昨年11月から12月にかけて各地区内の受卵牛に移植されました。

今後、受胎した牛については本年9月頃から順次候補子牛の出産が始まりますので、各地区出品対策協議会および関係機関と連携して、出生した子牛が優良素牛となるよう飼育体系に応じたフォローアップ、生産農家へのバックアップに努めてまいります。(高橋)

★家畜の医学 ～第4回 ビタミンA～

β-カロテンで繁殖を改善し、丈夫な子牛を育てましょう♪

秋から春にかけてのこの時期、貯蔵された稲ワラが給与粗飼料主体となっていると思います。この稲ワラは、ビタミンAの素となるβ-カロテンが非常に乏しい事をご存知でしょうか？このため、和牛生産の現場では潜在的に欠乏に陥っている個体がいると思います。

生体に必要なビタミンAは植物には含まれないので、β-カロテンを多く含む良質な乾草、ヘイキューブ、繁殖牛用飼料を給与しなければなりません。また、β-カロテンそのものも卵巣機能に大きく関与していることが分かってきました。つまり、β-カロテンは受胎に関係している黄体機能を改善し、空胎期間短縮が期待できるということです。分娩前後に意識して給与すると、初乳にも移行し、子牛の増体も期待できます。

「なかなか発情しないなあ～」とか「獣医さんから卵巣が小さいって言われた」ということがありましたら、積極的に検討されることをお勧めします。

不明な点があれば、何なりとお尋ねください。

空胎期間を短くして年間出荷頭数を伸ばし、丈夫で増体の良い子牛を出荷しましょう！(土江)



★平成26年度 第8回家畜衛生研修会を開催しました！

毎年、家畜関連技術の向上と情報の共有を目的として、家保職員対象の「家畜衛生研修会」を行っています。その中で今年度は、各家保の職員が持ち回りで研修内容を企画し、管内の畜産施設等を会場として、特に若手職員を対象とした研修会を開催することになりました。今回当所が担当した2月5日の研修概要をご紹介します。

○講演「私の獣医業務について」講師 平井秀敏先生

ミネラルエッグ生産養鶏農場、出雲市トキ分散飼育センターの管理獣医師である平井先生に、業務の内容やこれまでの経験についてご講演いただきました。

ふだんなかなかお聞きできないお話、ありがとうございました！



○ドロマイト石灰による消毒実習

発熱せず、水に溶けやすいドロマイト石灰で石灰乳を作り、動力噴霧器で畜産技術センター酪農・環境科のハッチに噴霧しました。

雨や寒さなど天候は悪かったですが、無事噴霧できました！



今後も知識や技術の向上に努めてまいりますのでよろしくお願いします。（廣江）

★平成26年次 県内における監視伝染病発生状況

畜種	病名	発生頭数
牛	ヨーネ病	1
	牛白血病	14
	牛ウイルス性下痢・粘膜病	9
	破傷風	2
豚	豚丹毒	8
犬	レプトスピラ症	1

監視伝染病とは、獣医師あるいは家畜の所有者が病気を発見した時、届出が必要な伝染性疾患のことで、現在99疾病が法令で定められています。

平成26年次は、左表のとおり県内で発生しています。

このような伝染病を農場に侵入させないためには、導入時の検査と日頃の衛生管理が大切です！導入時の検査をご希望の方は、当所までご連絡下さい。（尾崎）

編集後記

寒さがだいぶ和らいできましたね。今年の冬は暖かいと思っていたら急に寒波が来て、何度灯油を買いに行ったことか……。梅の花も咲いて、次は桜の番ですね♪私はそろそろ花粉対策にマスクと目薬を買いに行かなくちゃ（´・`）

（尾崎）